



令和2年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和元年8月9日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員社長室長 (氏名) 山田 秀樹

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 令和元年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年3月期第1四半期の連結業績(平成31年4月1日～令和元年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期第1四半期	14,909	5.2	335	△0.5	358	0.0	248	17.6
31年3月期第1四半期	14,170	10.7	337	21.2	358	21.2	211	12.3

(注)包括利益 2年3月期第1四半期 257百万円 (26.3%) 31年3月期第1四半期 203百万円 (△4.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年3月期第1四半期	25.24	—
31年3月期第1四半期	21.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2年3月期第1四半期	17,854	7,036	39.4	714.80
31年3月期	17,955	6,837	38.1	694.64

(参考)自己資本 2年3月期第1四半期 7,036百万円 31年3月期 6,837百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
2年3月期	—	—	—	—	—
2年3月期(予想)	—	6.00	—	6.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和2年3月期の連結業績予想(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	29,300	3.3	520	1.9	560	1.7	320	1.2	32.51
通期	58,800	2.5	1,070	6.3	1,130	2.8	630	29.7	64.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2年3月期1Q	10,833,000 株	31年3月期	10,833,000 株
② 期末自己株式数	2年3月期1Q	989,121 株	31年3月期	989,121 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2年3月期1Q	9,843,879 株	31年3月期1Q	9,843,879 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は高水準を維持しており、個人消費も良好な所得環境に支えられ、緩やかな回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦の長期化や中東における地政学的リスクの高まりにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、異業種からの参入や価格競争が一層激化するとともに、労働需給の逼迫に加え、人件費関連コストが増加する中、働き方改革への対応も求められており、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様の多様なニーズに応えるべく、付加価値のある商品提供に注力するとともに、事業部間の連携に注力し、業務の効率化と販売チャネルの拡大を目指すことにより企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は149億9百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は3億35百万円（前年同期比0.5%減）、経常利益は3億58百万円（前年同期比0.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億48百万円（前年同期比17.6%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、4月にチャレンジャー小千谷店（新潟県小千谷市）の移転リニューアルを行い、買い回りしやすい売場に配置変更した他、新たに始めた鮮魚対面販売及びインスタペーカーなどで、お客様に好評をいただきました。

また、若者を中心とした酒離れの傾向から、酒販部門の売上は前年を下回りましたが、当社の特色である業務用食品の売上げが大きく伸びたことと、生鮮品の入荷が安定していたため、売上高は堅調に推移しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は57億1百万円（前年同期比0.6%増）、セグメント利益は1億25百万円（前年同期比8.9%増）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、前期末のテレビ放映後から新規来店客数が増加し、大幅伸長傾向が続いております。また、春からの相次ぐ食品値上げに対する防衛策として、高品質・低価格な業務用商品の需要が伸びたことと、ゴールデンウィーク期間の物流の状況を踏まえ、事前に商品を確保するなど販売機会のロスが少なかったこともあり、売上高は子会社を含めほぼ全店で前年を上回りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は60億24百万円（前年同期比16.1%増）、セグメント利益は2億19百万円（前年同期比48.7%増）となりました。

(弁当給食事業)

弁当給食事業につきましては、千葉工場において惣菜等の受託量及び事業所向け宅配弁当の食数は、前年に比べ増加しました。しかしながら、その他の店舗につきましては、比較的受注数の多い人気商品を取り入れたメニュー構成にするものの、需要の中心である小規模な事業所や工場の従業員数の減少は未だ続いており、販売食数は伸び悩みました。

また、Webサイトからの注文比率の増加に取り組み、お客様の利便性の向上と事務の効率化を進めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は19億42百万円（前年同期比1.5%減）、セグメント利益は79百万円（前年同期比27.0%減）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、ケアハウスや福祉施設などへの食材販売を行う「ヨシケイキッチン」の契約施設数は順調に増加し、同部門の売上高は増加しました。しかしながら、主力商品である一般家庭向け「すまいるごはん」の食材セット販売につきましては、「10日間トライアルセール」等のキャンペーンを行い、新規の顧客開拓に努めたものの、販売数は減少し、売上高は前年同期に及びませんでした。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は10億77百万円（前年同期比5.2%減）、セグメント利益は54百万円（前年同期比42.4%減）となりました。

（旅館、その他事業）

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、大型連休となったゴールデンウィーク期間は、旅行代理店からの送客による昼食利用、一般のお客様によるレストラン利用者数及び一般の宿泊者数は伸び、例年になく多くのお客様にご利用いただきました。しかしながら、6月18日の山形県沖を震源とする地震によりキャンセルが相次ぎ、6月の売上高は前年同月に比べ減少しました。

定食屋「米どころん」につきましては、売れ筋商品に付加価値を付けてリニューアル販売したことや、前期より銀座3丁目店で始めた朝食サービスにより客単価は上昇しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント売上高は1億62百万円（前年同期比22.4%減）、セグメント損失は12百万円（前年同期はセグメント損失20百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億円減少し、178億54百万円となりました。これは主に、商品が1億82百万円及び流動資産のその他に含まれる前払費用が1億43百万円増加しましたが、現金及び預金が2億36百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億99百万円減少し、108億18百万円となりました。これは主に、長期借入金金が2億7百万円及び未払法人税等が1億52百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億98百万円増加し、70億36百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億89百万円増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は1.3ポイント上昇し、39.4%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、実績と今後の見通しを勘案し、令和元年5月14日の「平成31年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,508,330	2,271,521
売掛金	1,306,982	1,354,536
商品	1,460,253	1,642,532
原材料及び貯蔵品	104,631	108,323
その他	490,128	621,057
貸倒引当金	△2,195	△2,395
流動資産合計	5,868,130	5,995,577
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,040,546	4,971,637
土地	3,412,886	3,241,265
その他（純額）	810,327	878,331
有形固定資産合計	9,263,760	9,091,234
無形固定資産		
のれん	252,312	235,491
その他	265,627	269,251
無形固定資産合計	517,940	504,743
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	74,115	74,140
その他	2,243,088	2,200,656
貸倒引当金	△12,012	△11,862
投資その他の資産合計	2,305,191	2,262,935
固定資産合計	12,086,891	11,858,912
資産合計	17,955,022	17,854,489
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,985,232	3,087,490
短期借入金	911,528	890,188
未払法人税等	243,702	91,404
賞与引当金	213,961	91,341
その他	1,780,036	1,806,291
流動負債合計	6,134,460	5,966,716
固定負債		
社債	600,000	600,000
長期借入金	2,899,772	2,692,660
リース債務	307,480	387,457
退職給付に係る負債	16,224	10,149
役員退職慰労引当金	130,060	134,960
資産除去債務	621,035	623,535
その他	408,040	402,574
固定負債合計	4,982,612	4,851,336
負債合計	11,117,073	10,818,053

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	6,381,564	6,570,994
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	6,798,402	6,987,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69,908	78,040
退職給付に係る調整累計額	△30,361	△29,437
その他の包括利益累計額合計	39,547	48,603
純資産合計	6,837,949	7,036,436
負債純資産合計	17,955,022	17,854,489

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
売上高	14,170,539	14,909,546
売上原価	10,642,756	11,270,324
売上総利益	3,527,783	3,639,221
販売費及び一般管理費	3,190,054	3,303,307
営業利益	337,728	335,913
営業外収益		
受取利息	1	8
受取配当金	4,144	4,827
受取家賃	5,374	6,377
その他	20,718	21,130
営業外収益合計	30,238	32,343
営業外費用		
支払利息	5,039	6,027
その他	4,130	3,360
営業外費用合計	9,170	9,387
経常利益	358,796	358,869
特別利益		
固定資産売却益	200	35,928
受取保険金	4,445	—
特別利益合計	4,645	35,928
特別損失		
固定資産除却損	2,059	2,398
店舗閉鎖損失	—	1,012
その他	2,722	398
特別損失合計	4,782	3,809
税金等調整前四半期純利益	358,660	390,988
法人税、住民税及び事業税	61,447	79,027
法人税等調整額	85,975	63,467
法人税等合計	147,422	142,495
四半期純利益	211,237	248,493
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	211,237	248,493

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日）
四半期純利益	211,237	248,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,774	8,132
退職給付に係る調整額	△1,488	923
その他の包括利益合計	△7,263	9,056
四半期包括利益	203,974	257,550
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,974	257,550
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	5,665,508	5,186,823	1,971,738	1,136,530	209,938	14,170,539	—	14,170,539
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	598	25	41,623	—	1,243	43,490	△43,490	—
計	5,666,107	5,186,848	2,013,361	1,136,530	211,182	14,214,030	△43,490	14,170,539
セグメント利益 又は損失(△)	115,442	147,479	108,316	95,279	△20,249	446,268	△108,539	337,728

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△108,539千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△108,700千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成31年4月1日至令和元年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	5,701,860	6,024,350	1,942,453	1,077,918	162,963	14,909,546	—	14,909,546
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	671	34	48,249	—	1,394	50,350	△50,350	—
計	5,702,532	6,024,385	1,990,702	1,077,918	164,358	14,959,896	△50,350	14,909,546
セグメント利益 又は損失（△）	125,701	219,245	79,032	54,868	△12,024	466,823	△130,909	335,913

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△130,909千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△131,074千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。